

シリーズ監修の序

超高齢化社会に突入した現代の日本に於いて、健康寿命に直結する運動器疾患はまさに国民的な重大関心事である。運動器を扱うプロとして、整形外科専門医の重要性は今後ますます大きくなると思われる。一方で、運動器全般を扱う整形外科学は、その守備範囲がきわめて広範囲にわたり、かつ各分野の専門性が高い。一例をあげれば、年齢では新生児から高齢者まで、部位では脊髄・末梢神経・骨・関節・筋腱など、疾患では先天性疾患・外傷・変性疾患・感染症・腫瘍など、治療では細胞レベルの再生医療から、マイクロサージェリー・脊柱再建術・人工関節手術など、枚挙にいとまがない。これから専門医を目指す専修医の方々にとって、日々多忙な業務の中でこれだけ膨大な範囲の知識と技術を身につけるのは決して容易いことではない。従来臨床は見て聞いて盗むものだと言われてきたが、現在の研修制度にあっては効率よく学ぶツールが必須である。そこで、教科書としてもハンドアウトとしても利用可能な、整形外科専門医になるための必携書として本シリーズを企画した。

本シリーズは、日本整形外科学会が作成した「整形外科卒後研修ガイドライン」の中で、“経験することが望ましい”とされた外傷や疾患を可及的に網羅している。したがって、本シリーズを通読すれば研修記録に必要な疾患が一通り経験できることになる。さらに、各項目の最初にポイントをまとめて、タイトルにあげた項目全体を把握しやすくするように工夫した。

執筆者は各分野の第一線で活躍中の指導者で、高度な専門性を備えていることはもちろん、現場で研修医・専修医・専門医に対する指導を日々実践中の、臨床指導のエキスパートばかりである。重要な記述のみならず、指導の現場でよく出る質問、間違いやすい知識、陥りやすいピットフォールなどを、経験に基づいて「指導医の教え」としてまとめてもらっている。臨床の現場で永年かかって身につけた技術や知識を、その人の言葉でかみ砕いて語ることによって、味わいあるワンポイントアドバイスが出来たと自負している。さらに、上級医にコンサルトが必要な場合や、他科依頼が必須の場合などについても、それぞれ項目をもうけて「専門医にコンサルトを要する場合」「他科にコンサルトを要する場合」としてまとめてある。これらの項目は、そこだけを拾い読みしても疾患のより深い理解に役立つはずである。

本シリーズの目的は、整形外科専門医を目指す方々への道しるべとなることである。本シリーズが読者の方々に活用され、専門医としてふさわしい実力をつける一助となることを願う次第である。

2008年3月

戸山芳昭
大谷俊郎